学校だより　令和8年　10月25日

瀬南谷　みなみせや

じっくり　ゆったり　たっぷり　つながる

教務主任　大場　健司

秋が一段と深まり、朝晩の冷え込みが厳しくなってまいりました。保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、実りの秋を迎え、子どもたちはよく学び、よく遊び、よくかかわり合っています。先日の南小オリンピック（運動会）では、一人ひとりが全力で取り組む姿が見られ、大きな成長を感じることができました。今後も「みんなが かがやく みなみの子」の目標に向かい、教職員一同努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

…実は、ここまでの挨拶文は「AI（人工知能）」が作成したものです。わずか数秒で“最適解”のような文章ができました。非常に効率的ですが、読み返すと何か物足りない。そこには、子どもたちの表情や驚きの声、日々見せてくれる“心情”がこもっていないからです。

運動会の練習が佳境を迎えた十月中旬。校庭から響く声に誘われて足を運ぶと、ペア学年の演技を見守る中で、教師の性でしょうか…おしゃべりをしている子らが目に入りました。「見つけてしまった…」と近づいて耳を傾けると、聞こえてきたのは予想外の言葉でした。

「さっきの移動、もう少し外側を通ったほうがぶつからないかな？」「そうだね、次はこうしてみようよ」

ふざけていたのではありません。“自分たちの表現をもっとよくしたい”と、自分の言葉で必死に語り合っていたのです。その真剣な姿に胸が熱くなりました。そして安易に「おしゃべりをやめなさい。」と指導せずによかったなぁ…と胸をなでおろしました。

学校生活では、思いがすれ違ったりぶつかったりすることもあります。それでも、「本当はどうだったか」「相手はどう思っていたか」と振り返るとき、子どもたちの視野は少しずつ広がっていきます。AIの与える“最適解”ではなく、自分たちで導き出す“納得解”。その試行錯誤の過程が、仲間とのつながりを深め、心にあたたかな灯をともすのだと思います。

「じっくり　ゆったり　たっぷり　つながる」

今だからこそ、すぐに答えを求めず、腰を据えて「じっくりゆったりたっぷり」かかわり「つながる」。少し泥臭くて遠回りですが、確かに心を育てる“つながり”です。学年の練習だけではなく、全校での練習、休み時間の応援団・リレーの練習を見守る子どもたちの姿、高学年の実行委員の活動…たくさんの姿に胸が熱くなりました。一見、泥臭くて遠回りな日々の教育活動の中にこそ、大事なことがあるんじゃないか…そんな“納得解”を得た、今年度の運動会でした。

そんな“つながり”のある運動会になったのは、保護者の皆様、南小地域応援隊 OP ボランティアの皆様、そして地域の皆様のお力があってこそです。演技・競技を「する」だけでなく、「見る」「知る」「支える」という形でご一緒につくり上げてくださったことに、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、十月上旬の「南瀬谷祭り」「宮沢オータムフェスタ」には、本校から３学年が参加させていただきました。地域の皆様が子どもたちの活動の場を広げてくださることを、心強く感じています。学校は地域とともに歩む存在です。今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。